様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：３４３１４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ００５０６

研究課題名（和文）近代以降の「神話」概念の包括的再検討とその社会的意義の解明

研究課題名（英文）Comprehensive reconsideration of myth and its social significance in the modern world

研究代表者
清川　祥恵（KIYOKAWA, Sachie）

佛教大学・文学部・講師

研究者番号：５０７０９８７１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本課題では、欧米において近代の社会変化の初段階を見晴るかす鍵となっている「神話」が、日本文化においても社会を映す鏡として文学史・文化史・地域文化研究に資するものであるという点をより明確にした。狭義の神話だけではなく、さまざまな分野に現れる「神話」の伝統や要素の検証を行ない、「神話」の普遍的な影響力を明らかにするとともに、ローカルなものとして「神話」が社会との関連のなかで形作られていく動きを詳らかにすることができた。また積極的かつ継続的に国際学会に参加し、日本の地域伝承やスーパーヒーロー映画の分析を報告し意見交換することで、ローカル／グローバルの両面から「神話」概念について再考することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまで分断されてきた「神話」概念を、語る対象は違えども同じ「過去」の「語り直し」の行為として再検討し、日本における「神話」研究および文学史研究の発展に寄与したほか、越境文化研究としても各領域へ貢献することができた。また国内外の研究者とのネットワークをさらに拡張することで、2019年11月には国際シンポジウムの開催が実現した。一般より多数の参加があったフロアからも質問や今後の研究継続のご要望も寄せられ、社会還元の面からも有意義なイベントとなった。この時の議論をテーマとした新たな論集『人はなぜ神話〈ミュトス〉を語るのか』（文学通信）の出版が決定し、2022年度中の刊行が見込まれている。

研究成果の概要（英文）：The research clarified the significance of myths, the stories reflected the milieu of people now living or once lived. Japanese mythology is still read exclusively as religious material in most cases, while European myths are regarded as a forbearer of secular narratives. This gap leads the research attempts so far in Japan to sever and tuck myths into the separated areas. Through the multiple disciplines, thus, this research comprehensively reconsidered how myths functioned to inspire people and form their discourses for conceiving their own lives more consciously. Each analysis, such as the one focusing on the description of some local temple's origin or the 21st-century superheroes, jointly elucidates that the tide of modernisation itself is the key to answering why people tell the myths throughout history. Mythology works not just to inherit the local memory but also to subsume others within the same nation by forging a national tradition, but it sometimes transcends the borders.

研究分野：英文学

キーワード：神話　神話学　ミュトス　多文化共生　多文化主義　ナショナリズム　文学　アダプテーション

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究は、「神話」とは何か、という根源的な問いを出発点とし、とりわけこの概念が有する文化的・社会的意義を包括的にとらえ直そうとする試みであった。欧米においては「神話」によって、少なくとも　①「社会の世俗化」、②「比較神話学にもとづくナショナリズム発揚」、③「『神話』の再創作による多文化共生社会の創出」という、近代以降の社会における３つの動きを容易に辿ることができるが、我が国においては訳語がもたらす先入観の問題もあり、②に関心が集中する一方、①の影響が曖昧となっていた。そのため、グローバル化が叫ばれて久しい今日においても、欧米の研究動向との乖離が大きかった。本研究は、日本独自の社会状況・文化状況も踏まえつつも、この断絶をできる限り解消し、今日の社会において「神話」ひいては文学・人文学が果たす普遍的役割そのものを明らかにすることで、社会の理想の表象としての「神話」を再評価しようとするものであった。

世界的に「神話」研究がもっとも熱をおびたのは、近年では 1970 年代にさかのぼる。M・エリアーデの流行も傾注に値するが、本課題ともっとも関連するのはジャン・セズネックによる『神々は死なず――ルネサンス芸術における異教神』（髙田勇訳、美術出版社、1977 年）であろう。同書は中世に一度は忘れられていたかに見えた異教の神々がいかに「生き残った」のかを明らかにしている。原著出版当初の 1940 年英国では関心がそれほど集まらなかったものの、70 年代に学際的な「神話」への注目が高まるにつれ、その評価も上昇したことが訳者あとがきでも指摘されている（434-444 頁）。日本語の「神話」の定義は、ほとんどの「神話学」研究書が冒頭でその明文化を放棄し、さまざまな「神」が出現する各地域文学を比較するに終始する傾向があるが、ある文化そのものの中で複数の神話が語り直されながら生き続けるという、多文化間の相互影響関係への注視は、今日の文学の社会的意義を明らかにするうえで有用であり、欧米の 70 年代以降の「神話学」研究書も基本的にこの視点を採用している（e.g. Burton Feldman and Robert D. Richardson, Jr. eds., *The Rise of Modern Mythology, 1680-1860*, Indiana University Press, 1972）。本研究ではこのような、「神」そのものがその文化固有の存在として社会に影響するのではなく、「神」を「語る」行為こそが文化を形成するという、欧米の現時点での共通理解を出発点として、日本語における「神話」概念との断絶を解消し、包括的な「神話」を論じることをめざした。

２．研究の目的

本研究は、ヨーロッパ諸言語における「神話」（ギリシャ語の “muthos” からの派生語によってあらわされる）と、その輸入語であるはずの日本語の「神話」概念の違いに着目し、「神の物語」ではない「神話」の可能性を、下記の論点をふまえつつ、国内外の諸事例から究明することを目的として設定した。

① 国内の「神話研究」の問題点の検証：
欧米諸語では「伝説」などの「架空文学」を包含する概念であるのに対し、日本語では「神話」はもっぱら「『神』の物語」であると解されがちであった。また、欧米においては近代以降「神話」は（フロイトらの例を引くまでもなく）人文学の諸領域から心理学にいたるまで、多様な分析の鍵となる文化的要素として、大きな役割を果たしてきた一方、我が国における「神話研究」は、たとえば荷田春満らに代表される近世国学における神道祭祀の確立のための記紀神話研究として、または、いわゆる「文明開化」の一環として流入してきたギリシャ古典などの神話との比較研究として注目を集めて以降は、さほど大きな進展が見られなかった。20 世紀後半からは国粋主義回帰への懸念もあり、「日本の神話」について語ることが半ば忌避され、世界的な「神話」の研究動向との断絶は、以降、看過されざるを得なかった。こうした断絶は、とりわけ今日の文学研究を著しく阻害するものであって、たとえば明治期に輸入され、日本の「神話」研究でいまでもかならず参照されるマックス・ミュラーの学説は（あえて現在の文脈に落としこんで批判すれば）帝国主義時代の社会進化論を支える博物学的興味にすぎず、その後の比較神話学以外の論点を踏まえてゆくことが急務であった。

② 日本文学における他文化の「神話」の利用の意義の解明：
英語圏においては一つの大きな文化的（文学的）伝統をなすものとして「神話」と世俗文学が接続されている一方、日本においては、記紀神話と日本の世俗文学の関係性という系譜への注目がうすいだけではなく、結果としてグローバル化以降の自由な「他文化」の引用もまた、とるに足らないものと見なされがちであるという問題点があった。じっさいには、政府によるコンテンツ産業支援として 2009 年文化庁メディア芸術祭のマンガ部門大賞に、北欧サガの再創作である幸村誠『ヴィンランド・サガ』（講談社）が選ばれるなど、日本文学における他文化の「神話」の利用は、欧米と遜色のない頻度・範囲で行なわれ、また大衆文化として人気を博してもいることから、こうした乖離は早急に解消されるべきであった。

③ 海外の「神話」研究の最新状況のフォロー：
諸外国の神話研究においても、たしかにドイツで成立した近代神話学の影響力は認められており、文学史の各論として「神話」利用に言及した研究蓄積もある程度存在するものの、共時的な「神話」への興味に基づく創作活動は充分に横断的に検討されてはいなかった。21 世紀の大衆文化における「神話」利用についても、ハリウッド映画のファンタジーブームや「スーパーヒーロー」作品の量産など、まさに 2010 年代以降は英米で急速に関心が高まっており、ゆえに、日本も含めた「神話」の語り直しが持つ時代・地域に縛られない社会的意義は、各文学史においても、世界的にとらえられるべき文学潮流においても、大きな意義を持つものとして研究の対象として着目されるべきであった。

３．研究の方法

「神話」を通して明らかになる近代以降の社会の動向について、我が国では欧米と比してとくに、「社会の世俗化」との関係が十全に明らかにされていなかった。また「神話」の意義がはるかに包括的に認められている欧米においても、その「再創作」についての研究は依然として発展の途上にあった。したがって本課題は以下の３段階に従って考察を進める手法を採った。

I．「神話」概念の「世俗化」過程の解明
II．世俗的「神話」文学の再創作とその社会的意義の解明
III．現代における「神話」概念の役割とその影響力の解明

I．については、現代の文学では、「神話」は（宗教上のものとしても国民国家の文脈でも）「聖典」と必ずしも結びつかないことを、各時代の「他文化」の神話の影響、またはその積極的な利用という観点から実証した。II．については大衆文化においてさかんに再創作される「神話」が、個々人もしくは多様化する社会の理想像（もしくは、世俗化する社会への反動）として表象されている点に着目した分析を行なった。III．最後に、こうした地域／時代横断的な再創作の試みとの接続を意識しながら、各分担者の専門領域（下記に詳述する）から「神話」概念を再考し、近代以降の「神話」概念のもつ普遍的な役割を明らかにすることを試みた。これまでさまざまに分断されてきた「神話」概念を、語る対象は違えども同じ「過去」の「語り直し」の行為として再検討することで、とりわけ日本文学史における「神話」研究および文学史研究の発展に寄与するほか、越境文化研究としても一定の成果を見込むことができた。

４．研究成果

本研究課題の代表者・分担者・連携研究者・研究協力者が参加した論集である勉誠出版の『「神話」を近現代に問う』が、本課題の採択と前後して刊行されたが、この論集は地域間の個別研究を時系列に並べたという性格がつよく、分節的な議論に留まっている部分が大きかった。したがって本研究課題では、とりわけ欧米において近代の社会変化の初段階を見晴るかす鍵となっている「神話」が、日本文化においても社会を映す鏡として文学史・文化史・地域文化研究に資することをより明確にしてゆくため、同書の合評会を行なうところから着手した。とりわけ、研究目的の①に挙げた「国内の「神話研究」の問題点の検証」については、合評会や研究会での議論によって、代表者・分担者・連携研究者・研究協力者の各専門分野における視角の違いや語義の相違についての議論を深めていくことができた。これにより、「特定の国家と結びついた個別の神話（群）の構造比較にとどまらず、時代と時代、社会と社会をつなぐ文化装置としての「神話」の力」（清川祥恵「総論　「神話」を近現代に問う」、『「神話」を近現代に問う』7 頁）の存在を、本課題参加者の共通認識として確立し、その土台に基づいて研究内容を発展させてゆくことができた。

またこうした「「神話」の力」の実態を明らかにするために、狭義の神話だけではなく、さまざまな分野に現れる「神話」の伝統や要素の検証を行なった。これは目的で述べた②「日本文学における他文化の「神話」の利用の意義の解明」のための作業にも該当する。参加研究者のうち、日本をフィールドにする者はもちろんのこと、国外を主たる研究対象とする者も、比較の観点から、あるいはより大きな文化の邂逅・流入の構図への着目によって、「神話」の普遍的な影響力を明らかにするとともに、他方でローカルなものとして「神話」が人為的に形作られていく動きと社会の関係性を詳らかにすることを試みた。

目的の③「海外の「神話」研究の最新状況のフォロー」については、代表者・分担者が積極的かつ継続的に国際学会 International Association for Comparative Mythology での成果発表を行なうなどし、最新の動向について意見を交換することができた。日本の地域伝承の事例やスーパーヒーロー映画の分析を取り扱うことで、ローカル／グローバルの両面から「神話」について再考する大きな契機となった。また、学会等での交流を元に国内外の研究者とのネットワークをさらに拡張することで、2019 年 11 月には国際シンポジウム「『マヤ文明』と『日本神話』：近代知が紡ぐ地の『記憶』」の実施が実現した。同シンポジウムは、近代学知を底流に持ち、今はなき祖先の「記憶」を想像／創造し、語るものとしての日本神話とマヤ文明に焦点を当てたものであった。西洋知をすなわち近代知として受容した日本とメキシコという二つの国における事例を、メキシコ社会人類学高等研究院のホセ・ルイス・エスカロナ・ビクトリア教授と國學院大學

の平藤喜久子教授の両名から、それぞれ「マヤ神話を仕立てる：19 世紀における新大陸文明の断片」、「植民地主義と日本神話」と題して講演いただき、コメンテータの鋤柄史子氏からは、近代の印刷術の発展と、帝国主義的な文化の収奪によって、原生林ではなく手入れされた庭園のように整備されていくものとしての「神話」という観点が補足された。一般より多数の参加があったフロアからも、「マヤ神話」と日本の神話の類似点・相違点につき複数の質問が提出され、同時に、当シンポジウムについて、非常に意欲的な企画であるとして、今後の研究継続のご要望も寄せられ、社会還元の面からも有意義なイベントとなった。2021 年にはこの時の議論を中心的なテーマとした新たな論集『人はなぜ神話〈ミュトス〉を語るのか』（文学通信）の出版が決定し、2022 年 3 月現在校正作業が進められており、2022 年度中の刊行が見込まれている。

＊引用文献

- ジャン・セズネック『神々は死なず――ルネサンス芸術における異教神』髙田勇訳、美術出版社、1977 年。
- Burton Feldman and Robert D. Richardson, Jr. eds., *The Rise of Modern Mythology, 1680-1860*, Indiana University Press, 1972.
- 植朗子・南郷晃子・清川祥恵『「神話」を近現代に問う』勉誠出版、2018 年。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名 KIYOKAWA Sachie	４．巻 65
２．論文標題 Darkly Gleaming Sunken Treasure: Reclaiming Chocolate’s “Mythical” Role through Joanne Harris’s Chocolat	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Memoirs of the Osaka Institute of Technology	６．最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 斎藤英喜	４．巻 11
２．論文標題 折口信夫の「陰陽道」研究・再考	５．発行年 2021年
３．雑誌名 佛教大学『歴史学部論集』	６．最初と最後の頁 65-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大野順子	４．巻 6
２．論文標題 日本学術会議任命拒否問題に見られる学問の自律性：オーストラリアの場合	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日英教育誌（日英教育研究会）	６．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 横道誠	４．巻 1
２．論文標題 南太平洋地域の神話的空間ーールイ・アントワーヌ・ド・ブーガンヴィルからゲオルク・フォルスターへ	５．発行年 2020年
３．雑誌名 神話と昔話・その他 GRMC 2020	６．最初と最後の頁 109-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大野順子	4．巻 17
2．論文標題 イギリスにおけるシティズンシップ教育の変遷	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本学習社会学会年報	6．最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 斎藤英喜	4．巻 298
2．論文標題 博士・神職・大夫―いざなぎ流の神楽と宗教者	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本民俗学	6．最初と最後の頁 35-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 上月 翔太	4．巻 2
2．論文標題 ヴィーダ『キリスト物語』第2巻「シモンの歌」と「最後の晩餐」の関連性 ： 神のアクチュアリティを導く叙事詩	5．発行年 2019年
3．雑誌名 神話学研究	6．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/75531	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大野順子	4．巻 4
2．論文標題 教科教育のこれから―教科の専門性から教科横断へ―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日英教育誌	6．最初と最後の頁 20-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 植朗子	4．巻 1
2．論文標題 ドイツ語圏の民間伝承と観光―食文化・食養生・自然療法の事例から―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 神戸大学国際文化学研究推進センター2019年度研究報告書	6．最初と最後の頁 7-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 南郷晃子	4．巻 1
2．論文標題 角ある蝦蟇と「キリシタン」―変身譚の展開―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 神話研究	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sachie KIYOKAWA	4．巻 1
2．論文標題 The Past Illuminated by the Grey Light: A Study on the Influence of Benjamin Thorpe's Northern Mythology on William Morris	5．発行年 2018年
3．雑誌名 神話研究	6．最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 横道誠	4．巻 1
2．論文標題 神話に魂を奪われて――グリム兄弟とその後継者たちの民間伝承と民間信仰	5．発行年 2018年
3．雑誌名 神話研究	6．最初と最後の頁 43-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 斎藤英喜	4．巻 臨時増刊号
2．論文標題 神楽の仏教　中世神楽の現場から	5．発行年 2018年
3．雑誌名 現代思想 総特集＝仏教を考える	6．最初と最後の頁 368-378
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大野順子	4．巻 14
2．論文標題 地域と学校の関係性を豊かにする「ケアしあう共同体」の構築をめざして	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本学習社会学会年報	6．最初と最後の頁 44-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計15件（うち招待講演　0件／うち国際学会　7件）

1．発表者名 田口武史
2．発表標題 「遊戯は大事な瑣事である」ーグーツムーツの遊戯論ー
3．学会等名 日本独文学会西日本支部　第72回研究発表会
4．発表年 2020年

1．発表者名 大野順子
2．発表標題 イギリスにおけるシティズンシップ教育の変遷
3．学会等名 日本学習社会学会第17回課題研究「市民性教育の理論と実践に関する比較研究―日米英の動向について―」
4．発表年 2020年

１．発表者名 斎藤英喜
２．発表標題 陰陽師からいざなぎ流へ－見えるものから〈見えない世界〉を探る技法
３．学会等名 國學院大學　国際研究フォーラム
４．発表年 2020年

１．発表者名 植朗子
２．発表標題 怪異を引き寄せる「運命」 ―村上春樹『レキシントンの幽霊』における「緑色の獣」と「氷男」―
３．学会等名 2020年第9回村上春樹国際シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Sachie KIYOKAWA
２．発表標題 To call upon the ancestors: The meaning of becoming part of myth in Black Panther
３．学会等名 Thirteenth Annual International Conference on Comparative Mythology, International Association for Comparative Mythology（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koko NANGO
２．発表標題 SAN-JIN ,Hunter, and Christianity: the overlapping image of the missionaries and imaginary people living in the mountain
３．学会等名 Thirteenth Annual International Conference on Comparative Mythology, International Association for Comparative Mythology（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takashi SAKAMOTO
２．発表標題 The Tale of the Bamboo Cutter and the Orphic-Pythagorean (In Session355: Asian Identities in the Global Enlightenment 3)
３．学会等名 15th International Congress on the Enlightenment（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 田口武史
２．発表標題 J．Ch．F．グーツムーツの身体論
３．学会等名 第71回日本独文学会西日本支部学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 上月翔太
２．発表標題 古代末期とルネサンス期における聖書叙事詩―伝統の継承と「教化」の展開
３．学会等名 第52回ルネサンス研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 坂本貴志
２．発表標題 共通論題 II「《近代》の形成における古代表象の諸相」 時空間における多数性への転回―カントの「普遍自然史」について― 」
３．学会等名 日本18 世紀学会第41 回全国大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大野順子
２．発表標題 移民・移住女性の学び：シティズンシップ形成をもたらすインフォーマルな学びへの注目
３．学会等名 日英教育研究会2019年度研究茶話会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koko NANGO
２．発表標題 THE METAMORPHOSIS OF “BATEREN” AND “KIRISITAN”
３．学会等名 Twelfth Annual International Conference on Comparative Mythology (Sendai, JAPAN), International Association for Comparative Mythology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sachie KIYOKAWA
２．発表標題 An influence of “Northern Mythology” on Victorian Britain
３．学会等名 Twelfth Annual International Conference on Comparative Mythology (Sendai, JAPAN), International Association for Comparative Mythology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Makoto YOKOMICHI
２．発表標題 Comparative Mythology of the Brothers Grimm and Their Successors
３．学会等名 Twelfth Annual International Conference on Comparative Mythology (Sendai, JAPAN), International Association for Comparative Mythology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 田口武史
２．発表標題 帝国パトリオティズムにおける祖国（Vaterland）―F．C．v．モーザーを中心に
３．学会等名 九州大学独文学会第32回研究発表会（福岡市・日本）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計10件

１．著者名 山下久夫、斎藤英喜	４．発行年 2020年
２．出版社 思文閣出版	５．総ページ数 472
３．書名 日本書紀1300年史を問う	

１．著者名 斎藤　英喜	４．発行年 2020年
２．出版社 ＫＡＤＯＫＡＷＡ	５．総ページ数 304
３．書名 読み替えられた日本書紀	

１．著者名 ゲルハルト・Ｈ・ヴァルトヘル、内田 次信、竹下 哲文、上月 翔太	４．発行年 2021年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 360
３．書名 西洋古代の地震	

1．著者名 日本18世紀学会、岩佐愛、岩田美喜、上野大樹、大石和欣、大崎さやの、大野誠、大野芳材、隠岐さや香、川村文重、桑原俊介、小関武史、斉藤渉、坂下史、佐藤空、鳥山祐介、深貝保則、松原薫、若澤佑典、田口武史ほか	4．発行年 2022年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 768
3．書名 啓蒙思想の百科事典	

1．著者名 斎藤英喜	4．発行年 2019年
2．出版社 法蔵館文庫	5．総ページ数 518
3．書名 増補・いざなぎ流　祭文と儀礼	

1．著者名 斎藤　英喜	4．発行年 2019年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 436
3．書名 折口信夫：神性を拡張する復活の喜び（ミネルヴァ日本評伝選）	

1．著者名 植 朗子、阿部 海太、石黒 大岳、市川 彰、植田 麦、柏原 康人、紙村 徹、河島 思朗、木村 武史、齋藤 玲子、杉村 佳彦、髙木 朝子、高島 尚生、田澤 恵子、潘 寧、平井 芽阿里、松井 真之介、宮川 創、護山 真也、山口 涼子、横道 誠	4．発行年 2018年
2．出版社 創元社	5．総ページ数 132
3．書名 はじまりが見える世界の神話	

１．著者名 岡田荘司、丸山裕美子、佐藤眞人、北條勝貴、小倉慈司、斎藤英喜、早川万年、時枝務、有働智奘、松尾充晶、松尾恒一、橋本輝彦、白江恒夫、穂積裕昌、笹生衛、米川仁一、藤森馨、西宮秀紀、野口剛、高田義人	４．発行年 2018年
２．出版社 竹林舎	５．総ページ数 552
３．書名 古代文学と隣接諸学７　古代の信仰・祭祀	

１．著者名 植朗子、南郷晃子、清川祥恵、横道誠、斎藤英喜、坂本貴志、田口武史、大野順子、藤巻和宏、平藤喜久子、山下久夫、馬場綾香、潘寧、戸田靖久、木場貴俊、谷百合子、庄子大亮、谷本慎介	４．発行年 2018年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 256
３．書名 「神話」を近現代に問う	

１．著者名 酒井潔、鹿島徹、茂牧人、村井則夫、後藤正英、渡辺和典、川口茂雄、田口武史	４．発行年 2022年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 －
３．書名 ドイツ哲学・思想事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

神戸神話・神話学研究会
https://shin3ken.wordpress.com

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	坂本　貴志 (SAKAMOTO Takashi) (10314783)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	植　朗子 (UE Akiko) (20611651)	神戸大学・国際文化学研究科・協力研究員 (14501)	
研究分担者	山下　久夫 (YAMASHITA Hisao) (40239976)	金沢学院大学・文学部・名誉教授 (33305)	
研究分担者	斎藤　英喜 (SAITO Hideki) (40269692)	佛教大学・歴史学部・教授 (34314)	
研究分担者	南郷　晃子（中島晃子） (NANGO Koko) (40709812)	神戸大学・国際文化学研究科・学術研究員 (14501)	
研究分担者	大野　順子 (ONO Junko) (50737103)	摂南大学・理工学部・准教授 (34428)	
研究分担者	横道　誠 (YOKOMICHI Makoto) (60516144)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	
研究分担者	田口　武史 (TAGUCHI Takefumi) (70548833)	福岡大学・人文学部・教授 (37111)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	上月　翔太 (KOZUKI Shota) (90860867)	大阪大学・文学研究科・助教 (14401)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	里中　俊介 (SATONAKA Shunsuke)		
研究協力者	戸田　靖久 (TODA Yasuhisa)		
研究協力者	庄子　大亮 (SHOJI Daisuke)		
研究協力者	潘　寧 (PAN Ning)		
研究協力者	馬場　綾香 (BABA Ayaka)		
研究協力者	谷　百合子 (TANI Yuriko)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
連携研究者	藤巻　和宏 (FUJIMAKI Kazuhiro) (00468878)	近畿大学・文芸学部・教授 (34419)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
Mayan Civilization and Japanese Myth: Land’s Memory Woven by the Modern World’s Knowledge	2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関